

製品名: IPP-2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12709**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	25kDa

抗原情報

遺伝子名	PPP1R2
別名	PPP1R2; IPP2; Protein phosphatase inhibitor 2; IPP-2
遺伝子 ID	5504.0
SwissProt ID	P41236
免疫原	抗血清はヒト PPP1R2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 86-135

背景

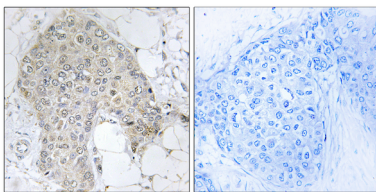
プロテインホスファターゼ 1 (PP1) は、真核生物の主要なセリン / スレオニンホスファターゼの一つです。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、PP1 の触媒サブユニットに結合し、その活性を強く阻害します。ヒトゲノム全体で 10 の関連擬遺伝子が見つ

かっています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数のスプライスバリエントが見つかっています。[RefSeq 提供、2015年10月]機能: プロテインホスファターゼ1の阻害剤。PTM: GSK3によるThr-73のリン酸化は、PP1-PPP1R2複合体を解離させることでPP1を活性化します(類似性による)。ATMによるSer-44のリン酸化は、PP1-PPP1R2複合体を解離させることでPP1を活性化する。類似性:タンパク質ホスファターゼ阻害剤2ファミリーに属する。サブユニット:PP1とのヘテロ二量体。

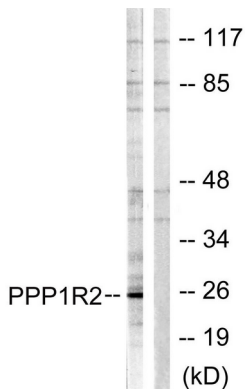
研究分野

-

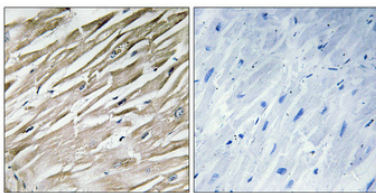
画像データ



PPP1R2抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



PPP1R2抗体を用いたJurkat細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト心臓の免疫組織化学染色。抗体は1:100(4°C、一晚)に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリスEDTA(pH8.0)を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール(右)は、免疫原ペプチドで前処理した。